

ゲンゴロウ

岡山県：準絶滅危惧

コウチュウ目

Cybister japonicus Sharp

環境省：準絶滅危惧

ゲンゴロウ科

選定理由

かつては県内に広く分布していたと思われるが生息地であった水田が農薬の使用等で生息できなくなり、各地のため池も圃場整理や乾燥化によって消失している。

存続を脅かす要因

池沼開発（埋立、護岸工事、生息地の改変）、水質汚濁、農薬汚染、外来種食害（ブラックバス等）

分布状況

県内では北中部の池から記録されている。

県外の分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、台湾、シベリア。

生息情報

大型のゲンゴロウで体長 34～42mm。池沼に生息し、水中をすばやく遊泳する。体形は卵型で比較的扁平。背面は緑色あるいは褐色を帯びた暗褐色で強い光沢があるが、雌では弱い。頭部、前胸背、及び上翅の側縁部は黄色～淡黄褐色。

ゲンゴロウ類は蛹化のために上陸する必要があるため、コンクリート護岸のなされた池では繁殖が出来ない。県内では吉備高原以北の池で見られるが少なく、かつて生息していた池がその後の調査で確認できなくなったところも多い。

文献番号 4, 188

(山地 治)



撮影：山地 治



マルコガタノゲンゴロウ

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

コウチュウ目

Cybister lewisianus Sharp

環境省：絶滅危惧Ⅰ類

ゲンゴロウ科

選定理由

全国的に減少しているゲンゴロウとして知られており、県内でもかつて生息していた池から消失している。

存続を脅かす要因

池沼開発（埋立、護岸工事、生息地の改変）、水質汚濁、農薬汚染、外来種食害（ブラックバス等）

分布状況

県内では倉敷市の古い記録があり、その後北東部の池で一時確認されたが突然なくなった。

県外の分布は本州、四国、九州、中国、ベトナム、アッサム。

生息情報

コガタノゲンゴロウに似ているが体形は卵型で比較的厚い。体長 21～26mm。背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で強い光沢がある。水生植物の生えた比較的大きな池沼に生息するが極めてまれである。

県内では古い倉敷市の記録があり、比較的最近では美作市の池で観察されていた。この池では個体数も多く、数年間生息が確認されていたが、突然消失した。その後、美作市の別の池等で一度記録されたがその地からも消失し、生息が確認されなくなって久しい。

文献番号 19, 98, 173

(山地 治)



所蔵：山地 治

